

日本一はゴールではありません(長友)

次代を担う者たち

「南那珂地区は若い世代の頑張りが目立った」と全共を振り返る長友さん。夢の舞台で日本一に輝いた、

2人の若者がいました。

1人は深江将央さん(大東地区・市ノ瀬1区)です。全共に関連して行われた和牛審査競技会・後継者の部で最優秀賞を受賞。「和牛4頭をあらゆる角度から評価し、序列をつけるという競技。彼の牛を見る目やセンスが高く評価されました」とのこと。

深江さんは県の最終選考に4区代表の候補として臨みましたが、4頭に絞り込む段階で落選。その後は長友さんの指導の下、競技会への準備を進めながら代表者をサポート。出品者を支えながら、自らも見事日本一に輝きました。

もう1人は第4区に出品した岩下信さんの次男である岩下信也くん(高鍋農業高校・2年)です。代表牛480頭の引き手の中で最年少。17歳という若さで堂々と大舞台に立ちました。長友さんは「引き手には牛をしつかりと立たせ、より美しく見せる技術が要求される」と話します。

信也くんは長崎への出発式で全出品者を代表して宣誓を行いました。「大好きな牛たちと共に、仲間の分まで頑張ります―その力強い姿に、南那珂の未来が重なるって見えました。

未来への扉を開く

南那珂にとつての維新

先人たちの積み重ねてきた改良の成果、思いの結晶といえる日本一。「今回、南那珂地域は種牛の部、肉牛の部ともに優秀な成績を収めました。この貴重な経験は、農家はもちろん技術員、畜産に関係するすべての人々の中で大きな『自信』という形で実を結んだといえるでしょう。若い世代は先人の築き上げてきた思い、その礎を、身をもって理解できたはずです」。

大きな実りを得て新しい一歩を踏み出した南那珂の畜産。「新たな扉が開かれました。それは、彼らが着実に二歩一歩、足元を見つめながら前進していくための扉です。今回の全共のテーマ『和牛維新』。まさに南那珂にとつての維新であり、今後の歩みに期待が持てます」。

長友さんの最後の言葉が、南那珂のこれからを示します。「日本一は

全国和牛登録協会宮崎県支部
業務部長
長友 明博さん
チーム宮崎を全共初の二連覇に導いた長友明博さんが語る
南那珂の畜産の未来。

ゴールではありません。一つの通過点なんです。先人の夢見た未来を乗り越えた南那珂の畜産は、次の未来へと歩みを進めていきます。

岩下 信也くん
(高鍋農業高校・2年)



「将来は肥育も繁殖も行う一貫経営をしたい。肥育でも日本一を狙います」

深江 将央さん
(大東地区・市ノ瀬1区)



「まずは南那珂のトップを狙いたい。次は2、3区で全共優勝を目指します」